

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102459		
法人名	医療法人 山部会		
事業所名	グループホーム響き 上代		
所在地	熊本県熊本市西区城山上代町60-1		
自己評価作成日	令和 2年 10月 11日	評価結果市町村受理日	令和2年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和 2年 11月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の状態に合ったケアを心掛け、家庭的な雰囲気大切にしている。
『身体拘束。しない、させない、見逃さない』をスローガンにし取り組んでいる。
毎月季節に応じた行事を計画し、楽しんで過ごしていただける様心掛けています。
開設して1年半が経ち、職員も安定してきた事もあり、施設内の雰囲気が良くなってきている。
入居者様とスタッフが、共に笑って毎日過ごしていける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和元年に開設というまだ新しいホームでは、“オレンジカフェ”コーナーを設け地域に開放する等地域の拠点としての役割を認識して取り組んでいる。地域の山や川を居室名として取り入れる等入居者にとっての馴染みある環境に努め、外出もままならない現状に室内での花見や誕生日会、餃子作り等職員の創意工夫は、入居者のできる力を発揮させ、笑顔を引き出す等彩りある日常として生かされている。運営推進会議議事録から透明性のある運営体制であることが確認され、サービス向上に反映したいとする高い意識を持ったホームである。職員体制も整い、笑い声のある明るい雰囲気が漂うなど、このコロナ禍の中で初期基盤作りに邁進されており、地域資源の一つとして更に認識が深まるであろうと、今後の展開が大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作っており、玄関に掲示している。理念の共有を図る場などは設けていないが、理念に基づいて支援を行っている。	法人理念を基に、基本方針として地域密着型事業所としての姿勢等基本方針として謳っている。管理者はケアに入る前に理念を読むことで意識したケアに努めるように指導する等日々のケアに直結させるよう努めている。	開設して2年、入居者と職員との関係性も深まりを見せたホームである。全員が一堂に会する機会は毎月開催される会議が主であろうと思われる。そのなかで、日々のケアが理念に即しているか等振り返りの機会を作られることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動等にスタッフが参加をしていたが、新型コロナウイルスの感染拡大で清掃活動もなく、回覧板もほとんどまわってこない。	自治会の一員として集団清掃時にはホーム周辺を掃除し、地域の資源の一つとしてオレンジカフェ「みんなのオレンジカフェ響き」を開所しているが、中止せざるを得ない状況やボランティア受け入れ施設としても手を挙げているが、コロナ禍の中で中止している。	入居者が地域とつながりながらの生活は今は難しい状況にある。今後も、地域の資源として認識されるよう、情報を発信していきたい。コロナ収束後には、“入居者が社会から孤立しないように…”とする方針の実践に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する知識や技術を地域住民に向けて発信していくために、毎月オレンジカフェを開催していたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の為、2回しか開催できていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況報告や行事の報告等を行っている。またその際に参加者からの意見聴取にて改善を図っている。今年度は4月と8月は文書での通達となってしまっている。	入居状況や、事故・行事報告(写真添付により開示)オレンジカフェ報告や苦情・相談事例等ホームの状況を基にした意見交換を行い、ケアサービスに反映させている。一堂に会することが難しい場合には、文書にて報告し、不明な点や意見等を頂戴するよう依頼している。透明性のある運営体制であることが議事録に表れている。	運営推進会議が開催できる場合には、身体拘束・虐待等の勉強会等も組み入れることを検討していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の介護事業指導室の担当の方には、不明な点等は相談している。ささえりあの方と情報交換や状況報告を行い、協力関係を築いている。また、オレンジカフェでは西区役所職員とささえりあ職員が協力してくれている。	行政担当部署への不明な案件の相談や、事故報告提出や苦情の相談等を行い、地域包括支援センター担当者との情報交換やオレンジカフェへの参加等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には定期的に身体拘束の勉強会を開催しており、身体拘束委員会も発足している。禁止事項を理解してもらったうえで職務についてもらっている。また身体拘束はしない方針で運営しており、ご家族より同意書をいただいている。	身体拘束廃止に向けた勉強会により意識強化を図るとともに、身体拘束の適正化委員会(3ヶ月毎、入居者の状況による臨時)を開催している。家族には身体拘束をしないことによるリスクを説明し、同意書を交わしている。入居者の帰宅願望、外に出たい等個々の状況を把握し、落ち着かれるまで待つみたり、納得されるように一緒に外に出てみる等個別に支援している。転倒防止にセンサーマットを使用する場合には家族の同意を得てプランに組み入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員対象の研修を定期的に行っており、虐待について学ぶ機会を設けている。また事業所内での虐待防止のために、日常の不適切なケアなどに注意できる環境を作っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度、権利擁護、日常生活自立支援事業、成年後見制度についての研修はまだ行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆっくり、丁寧に説明するよう心掛け、不安や疑問点等がないか尋ねるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族よりご意見等をいただいたら、スタッフ会議時にどうしたら改善できるのかを話し合い、法人へも報告し運営に反映させている。	意見箱の設置や、家族からの意見や要望には全員で話し合うとともに、法人へ報告している。今年1月には1周年記念として家族会を開催している。ホーム内外の苦情相談窓口を明確にし、家族への説明されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はいつでも職員の意見や提案の訴えがあれば、聞く機会を設け、できるだけ反映する様に心掛けている。また、月1回スタッフ会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は日々ケアに入り、職員とのコミュニケーションを図り、意見の収集や悩み等を聞き取りし、職員の意見や法人事務長へ相談し、解決を図っている。事務長による職員への聞き取りやアドバイスも行われ、家庭の諸事情による勤務体制や育児休暇等働きやすい環境が整えられている。また、毎月の会議により意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は居宅経営会議時に、管理者や職員の意見を聞き、できるだけ職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、法人内外の研修を受ける機会が増える様努めており、職員が研修等に参加する際は出勤扱いにするよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、法人内外の他事業所との交流を図り、情報の共有やネットワークづくりの努力をし、サービスの質を向上していく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の不安や集団生活をしていく上での不安や不満、要望等を傾聴し、安心して生活していただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前には要望を聞き、できるだけ要望に沿えるよう努めており、不明な点等ある時はその都度対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在何を求められているのかを見極め、ご本人やご家族が納得されるサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様と共に楽しみながら生活していける様、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族が面会に来られた時は、必ず近況報告をし、ご本人のためにどう支援をしていくのかをご家族と一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と話し合い、ご友人との面会等をお願いし、関係が途切れないよう努めているが、今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為、ご家族以外の面会はお断りしている。	家族の訪問や、たまに自宅と一緒に連れて帰られる家族等馴染みの場所・人との関係性が継続できるように支援してきたが、コロナ禍の今の現状は難しく、春は“おはぎ作り”に挑戦する等慣習を継続し、パソコンや映画鑑賞、動物等の動画等を楽しむ入居者等これまでの生活環境を継続して支援している。今後も、入居者にとっての馴染みの場所等を会話の中に入れるのも良いと思われる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握しトラブル等がおきない様気をつけながら、楽しみ、支えあいながら生活できるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたら入院先まで面会に行き、ご本人やご家族と話をし支援ができるよう努めている。転居された方に対しては、転居先に馴染むまで訪問させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の訴えや要望を聞き、できるだけ応えるように努めている。伝えることが困難な入居者様には、何をどうしたいのかを考えて答えていくようにしている。	入居者の希望や思い等出来る限り聞き取りし、プランニングに反映させるよう努力している。意思疎通・発語困難や難聴の入居者等要望等が伝える事が困難な入居者には、今後も本人の立場に立って検討したいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはご家族や前任のケアマネ等に話を聞き、職員へ周知する。日々の暮らしの中で補足する事があれば、計画作成担当者へ報告するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の入居者様の動きを記録するケース記録があり、1日の暮らしは記録を見れば把握できる。また、月1回のケアカンファレンスの時間も設けている。特記事項は連絡ノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のご本人との会話、申し送り、連絡ノート、月1回のケアカンファを利用し、職員同士で話し合い、計画作成担当者がご家族と話し、介護計画を作成している。	本人・家族の思いを基に、毎月のカンファレンス、定期的なモニタリングにより実施状況、目標の達成度や満足度等を踏まえ方向性を見極めている。身体状況変化による随時の見直し等現状に即した、実行可能な分かりやすいプランは、家族への説明、理解を得ており、安心して穏やかに生活して欲しいとする家族の思いが反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に誰が読んでも解る様に記入することを心掛け、申し送りや連絡ノートを活用し、職員間の情報の共有に努め、計画作成担当者へ報告し、実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にご本人やご家族の意思や状況に対応し、柔軟なサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の地域資源の把握には努めてはいるが、把握できていない事も多くある。今年度新型コロナウイルス感染拡大の為外出等はしていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とご家族の意向で決められているが、近い事もあり母体病院である上代成城病院にされている方がほとんどである。訪問看護も母体病院である為、緊急時も連携がスムーズである。	本人・家族の了承の下、母体医療機関をかかりつけ医として、訪問診療(月1回)や家族・職員による受診とし、必要に応じて専門医の紹介等適切な医療を支援している。歯科に関しては、必要時に訪問治療やかかりつけ医へ家族による受診が行われている。職員は食後の口腔ケアについても、見守りや必要なサポートを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤で勤務はしていない。日々の情報や気づきは常に訪問看護師に連絡している。訪問看護師が主治医へ連絡し、受診の必要があればすぐに対応できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の上代成城病院が近くにあり、訪問看護も同法人の為、常に情報交換しており、迅速に対応できる。状態に合わせて医師より対応病院を紹介してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明し同意を得ている。その都度ご家族に状況を説明し、話し合いながらできるだけ要望に沿った支援ができる様取り組んでいる。	入居時に看取り指針をもとにホームにできる支援などについて説明を行い、同意書を交わしている。また、リスクや医療中心の生活等個々の心身の状況により医師の指示を仰ぐとしている。現在も、本人・家族の意向をもとにホームで出来得る支援に努めている。今後の看取りケアを行う方向であり、研修なども行いたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には施設内研修や同法人の病院での研修に参加してもらい、実践力をつける様努めているが、派遣職員には出来ない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難確保計画を整備し、避難訓練も行う職員には冷静に避難できる様努めているが、派遣職員には出来ない。地域との協力体制はまだ築けていない。	今年度は法人医療機関や隣接施設と合同で、3月と10月に避難訓練を実施している。大型台風接近に備えて、風対応としてボードや非常食(カップ麺・カセットコンロ他)を用意している。また、ホームは立地面から水害時の対応も課題としてハザードマップによる水害時の避難計画を立て、2階への避難やライフジャケットを準備している。	今後も火災に加え、自然災害時の対応や、地域との協力体制について運営推進会議等を生かしながら検討されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自施設の勉強会を行い、研修に参加してもらいながら、プライバシーに配慮しながら言葉かけや対応するように努めている。	入居者へは尊厳を持って対応することを共有しているが、管理者は不適切な言葉使いなどがある場合は、その都度注意喚起している。お気に入りの帽子をかぶって、職員と楽しそうに話をされる入居者の姿は、場の雰囲気も和やかにしている。守秘義務の徹底については、入職時や会議の中で周知徹底を図っている。	職員の発する言葉一つひとつはその方だけではなく、周囲の気分を損なうこともあることを理解することが必要と思われる。また、コロナ禍の中で家族の来訪が制限されており、家族に代わって身だしなみの支援に、今後も努めていかれる事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様へ思いを聞き、できるだけ自己決定ができるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に無理強いすることなく、声かけや見守りをする事で、ご本人のペースに合わせて、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる入居者様には着たい洋服を選んでいただいている。また、2ヶ月に1回は訪問美容に来てもらい、ご本人の希望により、散髪や髪染めを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に数回イベント食がある。色々な好き嫌いにも対応している。また、自施設でも昼食を入居者様と一緒に手づくりしたりと楽しんでもいただけるよう努めている。準備や片付けは出来る範囲で一緒に行っている。	食事はご飯のみホームで炊き、汁物や副食は隣接する法人施設で調理されている。入居者から出された意見や要望などは、給食会議で意見交換されている。入居者が普段の調理に関わる機会はないが、調理の日を設け、餃子を包んだり、焼肉会、おはぎやぼた餅作りなどを楽しんでいる。また、台拭きや食器拭きなど出番の機会を支援している。	入居者にとって食事は楽しみの一つであり、今後は隣接する市場の食材を活かしたり、ホーム内での調理日を増やすなどの取組に期待したい。入居者の代弁者として今後の食事に反映されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日清医療食品の栄養士による、カロリー計算された食事を提供し、定期的な水分補給の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導を行い、確認をしている。介助が必要な入居者様には介助し行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意がない入居者様には定期的に声掛けし、誘導を行い、できるだけ失敗が無いよう支援している。ご本人で行かれる入居者様が長くトイレに行かれない時は、声掛けを行っている。	排せつは可能な限りオムツに頼らないよう支援している。1階は誘導を必要とされる方が多いが、2階は自立の方も多く、現状が維持できるよう適切な排泄用品や支援方法を検討し、100歳近くになられても自立でリハビリパンツのみで過ごされる方もおられる。夜間も個々に応じた排せつを支援し、夜間のみ使用される方のポータブルトイレも衛生的に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しやすい入居者様には排便チェックを行い、水分補給時に牛乳やヨーグルト、カルピス等の乳酸菌飲料を飲んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は人員体制上、午後からと決めているが要望や必要性があれば、常時行えるように努めている。また、入浴のお誘いをして断られたら、無理強いせず時間を置いて再度お誘いしてみる。	入浴日はある程度決まっているが、一人ひとりの要望やその時の気分なども考慮して、無理強いすることなく週3回、午後から実施している。中には「寒い！」「危ない！」など、拒否をされる方もおられ、職員は個々に応じた声掛けや誘導方法、脱衣場や浴室内の十分温めるなど温度管理に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に入居者様に任せているが、時間がわからず昼夜逆転される場合は、時間軸を整える支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理ファイルを作成し職員、訪問看護師と共有できるようにしている。薬の管理は看護師と職員が行い服薬時には必ず飲み込みの状態確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様ごとの楽しみごと等を把握し、できるだけ楽しんでいただける様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ入居者様の要望に沿える様な支援をしているが、人員が不足している時は応えられない時もあり、協力いただけるご家族にお願いしたりしている。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、ほとんどの入居者様が施設周りの散歩にしか行けていない。	コロナ感染症発生後は、庭先に出る機会が持たれているが、買い物やドライブなど以前のような外出は控えている現状である。職員は外出が困難な時期であるが、ホーム内での夏まつりの実施や、ユニット合同の誕生会など、外出に代わる楽しみ事を企画している。外出傾向のある方には、可能な限り職員が付き添い、庭先の花壇を見たり、ホーム周辺の散歩に出かけている。	今後も職員のアイデアや工夫により外出に代わるホーム内での楽しみ事を企画されることを期待したい。また日光浴を兼ねて、庭先に出て花壇を眺めるなど、身近な外出の機会も継続していきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身でお金の管理ができる入居者様には、自身で財布を管理していただきたいが、現状は自身で管理できる入居者様がいらっしゃらない為、事務所で管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からやご友人からの電話には取り次ぎ、手紙やはがきも渡している。あまりないが、ご本人が電話したい訴えがあれば、時間次第で応じている。(早朝・深夜以外は可能)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・共有空間は毎日掃除を行っている。入居者様と一緒に壁紙を作成し、季節感を出し、明るい気持ちで過ごせるよう工夫している。	各ユニットは入居者の介護度などの異なりもあることから、職員は現状に応じて席の配置や室温管理など過ごしやす環境に努めている。採光の良いリビング食堂は、日中の活動の場でもあり、歌声や談笑など、穏やかな日常の光景が見られた。また、入居者と一緒につくった壁面や作品の掲示なども双方の職員が工夫し、季節感を感じてもらえるようにしている。コロナ感染症への対応として、現在は特にホーム内の衛生管理に気を配っており、換気に加え掃除を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では個人個人で過ごしていただき、トラブル等がない様、見守りを行っている。居場所がわからなくなった場合は、スタッフと一緒に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具はご本人が使い慣れたものや好まれたものを持参していただき、落ち着いて過ごせるようにしている。	1階・2階のユニットは、「かわせみ」「やませみ」と命名され“白川・つぼい川”“立田山・金峰山”など、入居者に馴染み深い川・山の名が居室名である。入居時にこれまで自宅で使用していた物が身近にあることで、安心に繋がることを説明している。使い慣れたタンスなどの持ち込みもあるが、ソファや衣装ケース等新たに購入し、運搬の都合から業者による配達となるケースも多い現状である。コロナ感染症により面会のできない家族にとっては、居室内の掃除は気になるところであろうと捉え、職員は掃除日を決めて実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、ご本人の居室がわかるように工夫をしている。トイレや浴室、居室がわかられない入居者様には、職員が付き添い案内するようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102459		
法人名	医療法人 山部会		
事業所名	グループホーム響き 上代 2F		
所在地	熊本県熊本市西區城山上代町60-1		
自己評価作成日	令和 2年 10月 1日	評価結果市町村受理日	令和2年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和 2年 11月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は週3回は入れる。 ・身体拘束は行わないでいる。 ・毎月の行事があつている。 ・ゆったりとした過ごせる ・スタッフの雰囲気がいい。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有が図られるように2Fには更衣室、キッチンに掲示してあるが全職員に浸透していないように思う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスの影響もあり地域とのつながりは現在ほとんどない状況である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェの定期的な開催により地域住民にむけた研修会の実施を行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月毎に開催しており、施設の状況を報告するとともに、さまざまな意見をもらいサービスの向上に向けた取り組みがなされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ささえりあの担当者との関係構築は図れており、定期的に連絡をとりあっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを前提に施設全体で共通の認識を持っている。身体拘束の研修会も定期的に行い、新入職者の教育などにも力を入れている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修会を開きスタッフへの教育を行っている。虐待に関しておやっと思うことがあれば、注意を互いにできる雰囲気作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回程度研修を行い理解を深めてもらうようにしている。必要性を感じる場合や相談がある場合には適正な助言を行えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定などの際には必ず説明と同意をもらっている。また質問することがわからないこともあるため、随時質問を受けたまようようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族会の代表者に参加をしてもらい意見をもらっている。またその会議で外部のさまざまな方からの意見聴取も行って運営に反映させている。その他に玄関先に意見箱をもうけ意見をもらえる環境づくりを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はいつでも職員の意見や提案の訴えがあれば、聞く機会を設け、できるだけ反映する様に心掛けている。また、月1回スタッフ会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は居宅経営会議時に、管理者や職員の意見を聞き、できるだけ職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、法人内外の研修を受ける機会が増える様努めており、職員が研修等に参加する際は出勤扱いにするよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、法人内外の他事業所との交流を図り、情報の共有やネットワークづくりの努力をし、サービスの質を向上していく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際ほとんどの方が環境の変化にうまく対応できないことが考えられるため、その不安を少しでも和らげられるよう、事前の要望や関係づくり、環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が施設に入居を決めた背景などを理解し、これからの不安なことや要望などを聴く様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とスタッフがコミュニケーションを図りながら過ごし、食事を一緒にしたりと暮らしをともにする関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の今までの関係性などを把握し、適切な支援が行えるようにしている。家族と本人の関係性が入居後も続くよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた場所やなじみの人との関係を大切にしてもらいたい気持ちはあるが、施設入居されてなじみの場所に行くことはできていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ入居者同士が関わり合いをもてるよう支援をしているつもりであるが、あまりかわりをもとうとされない方についてうまく支援ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方が数名いたが、今後必要であれば相談してもらって構わない事と伝え、関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に思いや意向の把握に努めている。入居後の要望など本人の気持ちなどに変化があれば本人本位になるように検討していると思う。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者マネジメントし、介護計画書を作成しスタッフみんなで協議する場面を設けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの記録の意味など理解していない人もおり、さみしい記録になっていることも多い。経験があるスタッフなどは気づきや工夫を記録してくれており介護計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの中でできる範囲は介護保険制度上決まっているが、その中でも柔軟に対応できることは柔軟に対応していくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めているがまだまだである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化を訪問看護師に連絡したり、訪問時に気づきを相談したりし、相互関係が図られるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の連携は図れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行なえている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの使用についての研修会を定期的に行っている。事故発生時のフローチャートを作成し、どのような手順で対応すればいいかわかりやすくしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施を行い、全職員が避難できる方法を身に付けていると思う。地域との協力体制についてはまだできていないと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは愛情をもち丁寧に行っている。 一部職員が不適切な言葉かけを行っている際には、見過ごさないよう注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でそれぞれが日課として行っているもの以外は自己決定できるように働きかけている。一斉介護的なことは行わないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合など優先することもあるが一人一人のペースを考え支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、就寝時には更衣の支援を行っており、清潔な服装や場面にあった服装をきてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事をしたり、片付けを一緒に行ってもらったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の観察、嗜好品の準備、状態に合わせた食事の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っているが、口腔内の状態確認までは行えていない。しかしそれぞれの能力に応じた支援は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツはできるだけ使用しないでいよう、必要な用具や支援の方法など工夫して、排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝からの冷乳を提供して排便を促したり、水分が不足気味の方には寒天で提供したり、体操や運動を取り入れて、できるだけ下剤にたよらない支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一通り決めている。しかしその日の気分で入りたくないなどの要望等あれば、状況に応じて変更したりしている。スタッフの配置から考えると入浴の時間も決まってしまうと思う。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	さまざまな年齢の方がおられ、持病をお持ちの方も多く、それぞれに合わせて休んでもらったり、ゆっくり寝れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が理解しているとはいいがたいが、内服薬については効能や副作用を共有し、その後の変化を観察したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ってもらったり、それぞれの気分転換が図れるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋内で過ごすことが多く、天候のいい日には屋外に積極的に出るように努めている。また家族との外出などにも協力しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方が現金を手元に持っていたいと要望があり、お渡しをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から直接本人と話がしたいとの要望がある時には本人につながり対応している。訴えなどない場合の支援については行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間で不安や混乱を招くような環境にはなっていない。掲示物などを毎月更新し季節感を感じてもらえるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個室での一人での過ごし方はもちろん、気の合う人とのコミュニケーションが図れるよう、リビングなどを設けている。しかし思い思いに過ごせるような環境づくりまでには至っていないと思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたものは安心して生活を送ってもらえる一つの材料になるので積極的に持ち込んでもらっている。身体状況や今までの環境も考慮したうえで心地よく安全に過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで安全な環境を整えている。さらには手すりや介護ベッドなどを活用し、それぞれの身体状況を最大限に活かせるようにしている。		